

佳作

ばあばあちゃん

徳島県 石井町石井小学校三年 平尾 隆之介

ぼくのとなりの家には、おじいちゃん、おばあちゃん、ひいおばあちゃんと犬のカンスケがすんでいる。

ぼくたち家族は、ひいおばあちゃんのことを、「ばあばあちゃん」とよんでいる。おばあちゃんよりもおばあちゃんだからだ。

ばあばあちゃんは八十九さいだ。すごいゆっくりだけど一人で歩ける。庭でバーベキューをして肉も食べるし、ハンバーガーもポテトもすきで、毎日おやつも食べる。

ばあばあちゃんがいると、かいだんがたくさんある店や、テーブルせきのない店には行けない。行ける店がきまってくるけどそれでもいい。ばあばあちゃんがいっしょの方がいいからだ。だから、ばあばあちゃんがすきなおすしをみんなで食べに行くのが

すきだ。

ぼくと弟とばあばあちゃんとならんで「ドラえもん」を見る時は、ぼくたちの頭や足をなでてくれる。ばあばあちゃんはやさしい。

でも弟とけんかをした時、おこる。いつもおこらないばあばあちゃんがおこるぐらいけんかをするのは、いやなんだと思う。

お父さんやお母さんにおこられた後でも、ぼくのよい所を見つけてようとしてくれる。ばあばあちゃんはいつもほめてくれる。

ばあばあちゃんは、「にんちしょう」というびょう気だ。少し前に言ったことやしたことをわすれてしまう。でもむかしのことはよくおぼえていて、子どもの時の話や、死んだ「じいじいちゃん」の話をしてくれる。さつき食べたものや見たテレビはわすれても、毎日夕食の前にとなえるおねんぶつはわすれない。もうなん十年もつづけているらしい。じいじいちゃんのことが大すきだったんだと思う。

ばあばあちゃんは、さいきんぼくのことを「なおくん」とお父さんの名前だよ。もしかしたらこのままぼくの名前をわすれてしまうかもしれない。でもそんなことはべつにいい。ばあばあちゃんが元氣

だったらしい。いっしょにいたらいいと思う。

ばあばあちゃんが、「おぼえてないなあ」とか、「そんなこと言ったかなあ」と言った後、おじいちゃんもおばあちゃんもわらっている。お世話をするのが大へんそうな時もあるし、おこっている時もあるけど、わらっている時の方がずっと多い。

これからもいろんなことをわすれてしまうんだろうけど、ぼくは、ばあばあちゃんが大好きだ。このままずっとみんながいっしょにいられたらいいのになあと思う。